

QBIC第2期活動

2020年度 QBIC活動中間報告

2020年12月
QBIC企画運営委員長 三神 泉

2020年度の主な活動状況

1. QBIC全体活動

(1)第9回QBIC総会 書面開催

- 書面での開催を7月17日～28日に渡り実施し、**賛成多数で2020年度活動計画が承認され、活動に反映**

(2)会員数等（右表参照：WGはメンバー数、延べ数）

(3)その他：QZSS及びその他のGNSSに係る調査アンケート No.3内容を更新・作成中（12月中に実施予定）

QBIC/WG		2020年度 (2020年11月30日)	2019年度 (2019年7月31日)
QBIC		305	291
WG	アウトリーチ推進	18	13
	社会実装推進	260	163
	海外展開	114	71
	標準化	77	40

2. WG活動

WG	主な活動内容
アウトリーチ推進	<ul style="list-style-type: none"> 大分県産業創造機構にて、みちびき体験デモ・受信機体験講座等を10月16日に実施し、NHK大分、民放2社、地方新聞等にて報道され、一定の注目を得た。引き続き、他の連携団体（山口、広島、茨木を次期候補）との共催によるアウトリーチ活動実施の検討を開始。
社会実装推進	<ul style="list-style-type: none"> 連携団体・企業からの最新情報によるみちびき利用情報の共有を継続推進中。特に受信機に係る最新情報の発信に注力。また、測位航法学会（GPS/ GNSSシンポジウム）並び舞鶴高専（猿害対策）等との連携や支援を継続しながら、社会実装機運を醸成中。
海外展開	<ul style="list-style-type: none"> “QZSS広域サービス”をテーマに、国や有識者から7機体制の海外サービスやMADOCAを用いた海外実証事例の情報提供を受け、意見交換を実施。また、海外のGNSS施策・インターオペラビリティ動向、アジア太平洋地域の利用動向等を調査・検討の上、情報共有中。
標準化	<ul style="list-style-type: none"> QBIC規格であるGNSS端末コードのISO化を実施中。現在、提出案が国際投票で承認され、ISO作業原案を作成中。さらに、新たなQBIC規格の可能性として、異なる測位手段間の相対位置情報の交換フォーマット化に関する検討を開始し、議論が進行中。

QBIC第2期活動の中間見直し準備状況

1. QBIC第2期活動方針内の規定（要約）

1.1 中間見直し

2020年度に「みちびき」利活用状況を踏まえて中間評価を行い、要すれば活動内容を修正

1.2 活動満了の可否を判定7機体制整備完了年度（2023年度を目途）

7機体制整備完了年度（2023年度を目途）に、「みちびき」サービスの社会実装が十分普及したと自他共に判断できるか否かを条件として、活動満了の可否を判定

2. 中間見直しのポイント（活動の具体テーマの進捗状況はどうか）

2.1 会員交流とみちびき/GNSS普及の促進（実績とアンケート#2結果を基に主として事務局が評価案作成）

2.2 WG活動の展開（主としてWGが次頁「2.WG活動の展開」に則して自己評価案作成）

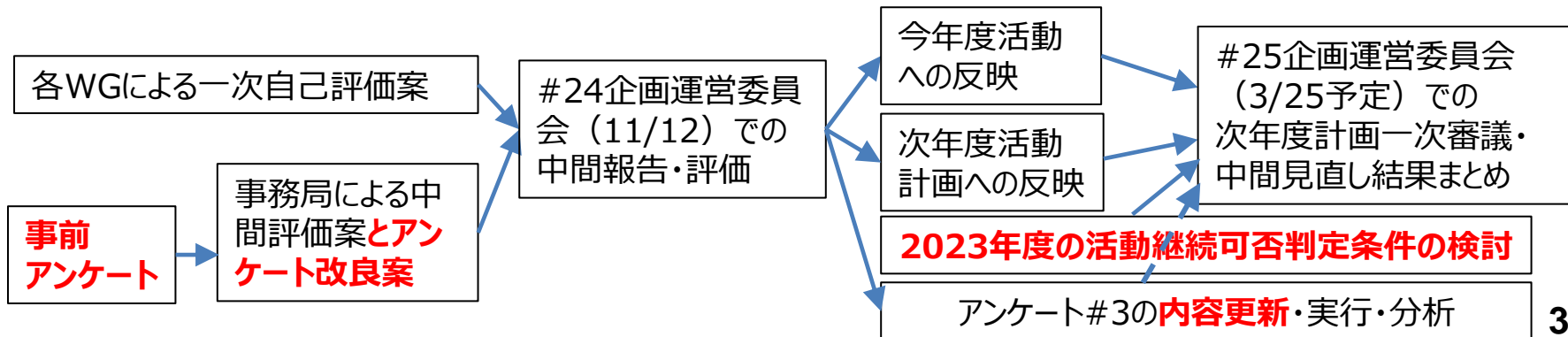
2.3 他団体との連携拡大（実績を基に主として事務局が評価案作成）

2.4 みちびき/GNSS実利用の測定・分析（事務局が特定分野深堀のためのアンケート改良案を作成し提案）

2.5 国・関係団体とのコミュニケーションの活性化（実績を基に主として事務局が一次評価）

2.6 新型コロナウイルスがG空間社会構想に与える影響を見極め活動に反映（適宜実施）

3. 中間見直しまでのプロセス（今年度活動計画時点から変更した朱書き部分を後段で報告）



事前アンケート結果とアンケート# 3の改善

4. アンケート#3に施す工夫

(1) 土木・建設、測量、道路・交通（特定分野と呼ぶ）の事前アンケート成果

- アンケート#2で抽出の特定分野42社に対し事前アンケートを10/Mに実施

みちびき利用中の分野における「具体分野（土木なら作業者位置管理、機材管理等）」の記載をお願いし、具体分野毎の受信機想定年間所有数と希望価格帯、測位以外の手段への置換可能性、測位精度＋安定性＋その他の信頼性への要求事項とその理由等を質問し、

①記載してもらえるか（若干競争領域に触れる部分有り）

②有意な回答が得られるか

を調査した。その結果、上記の懸念が払しょくされたことから、アンケート# 3に同様の質問を全分野に追加することを決定。事前アンケートとは言え、興味深いデータが含まれているため、HPを通じ近日中にて公開予定。

(2) LBSデータ数のより正確な把握（アンケートNo.2の反省点）

- 調査分野の**具体分野に「スマホ応用」を追加し、LBS相当としてカウント**する。

(3) 運営方法に関する改善箇所の調査（新型コロナ対策の自己見直し）

- アフターコロナに対応させ、更にしなやかな活動・運営方法を目指すため、**会員間のコミュニケーション、飲みニケーションに関する満足度や他の運営面の不満点の有無等の項目を追加**する。

2023年度のQBIC活動満了判定条件の検討

5. 満了判定条件（みちびきの社会実装・普及が自他ともに判断される）具体化の必要性

- ① 補完情報は多くのスマホやRTK受信機等に適用され社会実装は十分。
- ② 測位補強サービスである**SLAS、CLAS、MADOCAの社会実装の現状を踏まえ**、目線を高めた**2023年度末での活動満了判定条件**を設定し、この達成に向けた活動を加える。QBIC知恵袋会で3月の企画運営委員会までに検討する。

●社会実装の現状の整理例(たたき台) ※受信機価格はアンテナを含む。

	SLAS	CLAS	MADOCA
受信機価格※	数万円	70～100万円	
社会実装領域	交通安全モニタ、見守り・パーソナルナビ	2021年日産がEV自動運転自動車を発表決定	未
状況判定	受信機価格も低く、社会実装は自然成長段階	車から受信機価格低下が始まり、やっと本格化段階に突入	CLASに準じ受信機価格低下が予想され、サービス開始2023年度の垂直的実装展開を期す

●判定条件のまとめ方(案)

	SLAS	CLAS	MADOCA
受信機価格※	数千円？	10万円台以下？	
社会実装領域	具体的な実装領域を記載	具体的な実装領域を記載	具体的な実装領域を記載
満了判定条件	事業規模、受信機台数、事業数等を記載	事業規模、受信機台数、事業数等を記載	事業規模、受信機台数、事業数等を記載